# 校内研修に関する教員の意識調査

## ―― 校内研修の現状と課題 ――

第２回教育調査報告書
（中学校編）

２０１０年２月

（財） 新 潟 教 育 会

新 潟 教 育 研 究 所

# 発刊に当たって

財団法人新潟教育会
理事長　大　竹　　肇

生徒の学力と教師の授業力とには，高い相関関係があると思います。平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果によると，新潟県の中学３年生の正答率は，国語Ａが77.7，国語Ｂが75.1，数学Ａが61.8，数学Ｂが56.7でした。全国平均と比べると，国語Ａは＋0.7，国語Ｂは＋0.6，数学Ａは－0.9，数学Ｂは－0.2であり，ほぼ全国平均と同じと言ってよいと思います。

同じ調査に，「学校質問紙」による調査もありました。その中の質問番号89「授業研究を伴う校内研修を昨年度，何回実施しましたか」では，本県は「年間15回以上」の公立中学校が13.8％であり，全国の8.9％を大きく上回っていました。また，各教科・道徳等で年１回以上と考えて，年間11回以上を見てみると，本県は27.2％であり，全国よりも10.6ポイントも上回っていました。約１／４の中学校で，授業研究を伴う校内研修に力を入れ，授業力向上を図っていることが伺えます。

しかし，これら二つの結果からは，本県では教師の授業力向上に取り組んでいる中学校は多いものの，生徒の学力向上にはあまり結び付いていないということになりそうです。このことを証明するかのように，このたびの私たちの調査でも，本県の中学校教師は校内研修や授業研究に積極的に参画していることが明らかになっております。

そうなると，次の問題は「量」から「質」への転換になります。ある学校からは「授業研究の回数が多いため略案で済ませている」という報告もあると聞いております。これからは「質」の向上に努め，「指導主事等の外部指導者を招聘する」「今回の授業研究を次の授業研究に生かすというPDCAサイクルに基づいた授業研究にする」などが不可欠であると考えます。

さらに，各学校及び教師一人一人の実態は異なります。ぜひ本報告書を活用され，自校の校内研修と授業研究の推進実態はどうなのか，自分の参加態度や参加意識はどうなのかを振り返っていただき，更なる「授業力」の向上につながることを願っております。

最後に，本調査に御協力いただきました回答者の皆様に心よりお礼を申し上げます。また，県及び市町村教育委員会，各教育関係団体等には，これまでと変わらぬ御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げ，ごあいさつとさせていただきます。

# 目　　次

発刊に当たって …… 1

**Ⅰ章　調査の概要** …… 7

1　調査の趣旨 …… 9

2　調査の内容と方法 …… 9

3　調査の実際 …… 10

4　備　　考 …… 10

**Ⅱ章　調査の集計結果** …… 11

1　校内研修全般について …… 13

2　授業研究について …… 17

**Ⅲ章　調査結果の考察** …… 23

1　校内研修全般について …… 25

（1）　有用性について …… 25

（2）　参加態度について …… 26

（３） 満足度について …… 26
（４） 負担感について …… 27
（５） 改善点について …… 28
（６） 研究テーマの納得度について …… 29
（７） 授業研究を取り入れた校内研修の是非について … 30
（８） 全員参加型の授業研究の是非について …… 31

２ 授業研究について …… 32
（１） 実施状況について …… 32
（２） 楽しさについて …… 33
（３） 有用性について …… 34
（４） 参加態度について…… 35
（５） 満足度について …… 36
（６） 負担感について …… 36
（７） 改善点について …… 37
（８） いやだったことについて …… 39
（９） うれしかったことについて …… 40

**Ⅳ章　校内研修への提言** …… 43

1　校内研修全般について …… 45

（1）　参画型の研修を中核に据える …… 45

（2）　計画の策定を重層的にする …… 46

（3）　分担と協同で推進する…… 47

（4）　必要な研修内容にしぼり込む …… 48

（5）　校内研修に授業研究を位置づける …… 49

2　授業研究について …… 50

（1）　指導案や授業分析の理解を深める
基礎的研修を行う …… 50

（2）　教科横断的な協議題のもとに進める …… 51

（3）　授業の中で研究の成果を生かす …… 52

**Ⅴ章　資　　料** …… 53

1　アンケート調査用紙 …… 55

2　回答用紙 …… 61

# Ⅰ章　調査の概要

◇校内研修とは

校内の研修計画に基づいて実施される情報モラル研修や特別支援教育など，すべての研修のことである。ただし，教科部等において，校内の研修計画にしばられることなく，独自に，自発的に行われる研修は除く。

◇授業研究とは

よりよい授業の在り方を考えたり，授業力を身に付けたりするために行う実践的な研修のことである。実施にあたっては「指導案検討－研究授業－授業分析」のサイクルで行うことを基本とするが，その一部を省略して実施する場合も含む。

# Ⅰ章　調査の概要

## 1　調査の趣旨

教師力向上の要は，学校教育課題を共有する職員集団が一体となって，日常的に実施する校内研修の充実にある。幸い，県内の各中学校とも校内研修に精力的に取り組まれているが，一層の充実を期すためには，現状を批判的に検討しながら具体的な改善策を講ずることが必要である。

そこで，今回は，校内研修に対する中学校教員の意識調査を実施し，各学校における校内研修改善のためのデータを提供するとともに，校内研修に関する当教育研究所の提言をまとめることにした。

## 2　調査の内容と方法

### （1）　調査の内容

①勤務校において校内研修として実施されているすべての研修を対象にして，その有用性や参加態度，満足感や改善点等に関する教員の意識について調査した。

②勤務校において校内研修として実施されている授業研究を対象にして，その有用性や参加態度，満足度や改善点等に関する教員の意識について調査した。

### （2）　調査の方法

①県内中学校教員の中から無作為に抽出した教員の自宅にアンケート調査用紙を郵送し，回答するように依頼した。

なお，回答に当たっては，回答用紙及び返信用封筒とも学校名・氏名・住所の記載は不要とした。

②すべての設問は，選択肢の中から１つだけ選択する単数回答方式である。

なお，該当する選択肢がない場合には「その他」を選択し，簡潔にその理由を記述するよう依頼した。

## 3　調査の実際

### （1）　調 査 期 間

調査の期間は，平成21年８月１日～平成21年８月31日である

・平成21年７月29日にアンケート調査用紙を自宅宛に郵送した。

・平成21年８月31日までに回答用紙を当教育研究所宛に投函するよう依頼した。

### （2）　依 頼 教 員

依頼した教員は，上越・中越・下越の中学校に勤務する校長・教頭を除く20代～50代の男女234人（学校数133校）である

### （3）　回 答 教 員

回答した教員は，依頼した234人の教員のうち118人（回収率50.4％）である。

## 4　備　　考

### （1）　調査結果の分析について

本調査の結果と比較可能な統計資料がないことから，分析に当たっては当教育研究所スタッフの常識的判断を基準にした。

### （2）　報告書の活用について

①各学校独自の校内研修に関する反省・評価の比較データとして，Ⅱ章の「調査の集計結果」を活用いただきたい。

②Ⅳ章「校内研修への提言」を参考に，より充実した校内研修の推進に努めていただきたい。

③Ⅴ章「資料」のアンケート調査用紙は，自由にコピーして使用いただきたい。

# Ⅱ章　調査の集計結果

◇全設問とも選択肢の中から１つ選択する単数回答方式である。

◇選択肢の「その他」を選択した場合は，その理由を簡単に記述するよう依頼した。なお，個々の記述内容については紙面の都合で割愛した。

◇前年度，小学校教員を対象に同じアンケート調査した設問については，その結果を小さな円グラフで示した。

# Ⅱ章　調査の集計結果

## 1　設問ごとの集計結果

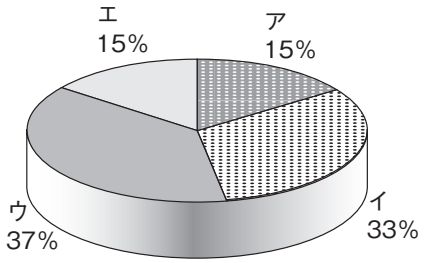
### (1)　校内研修全般について

**設問0-1　あなたの年代は？**

ア　20代
イ　30代
ウ　40代
エ　50代

| 回答項目 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 |
|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 18 | 39 | 44 | 17 |

（人）



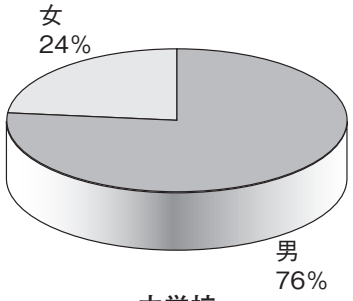

中学校

**設問0-2　あなたの性別は？**

ア　男性
イ　女性

| 回答項目 | 男性 | 女性 |
|---|---|---|
| 回答者数 | 90 | 28 |

（人）



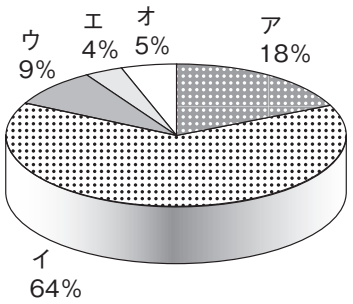

中学校

**設問1　あなたの学校の校内研修は，あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？**

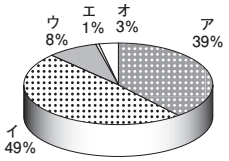
ア　かなり役立っている
イ　少し役立っている
ウ　あまり役立っていない
エ　ほとんど役立っていない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 21 | 75 | 11 | 5 | 6 |

（人）




中学校



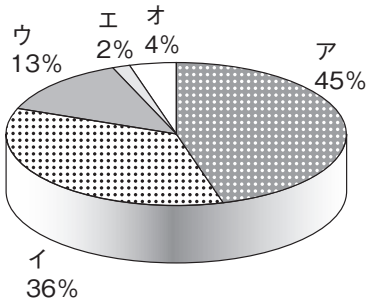

小学校

## 設問２　あなたは，あなたの学校の校内研修に積極的に参加していますか？

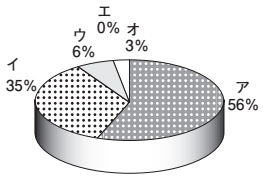
ア　かなり積極的に参加している
イ　少し積極的に参加している
ウ　あまり積極的に参加していない
エ　ほとんど積極的に参加していない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 53 | 42 | 16 | 2 | 5 |

（人）



中学校



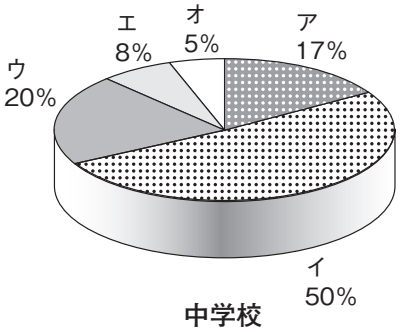
小学校

## 設問３　あなたは，あなたの学校の校内研修について満足していますか？

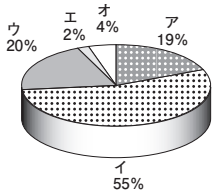
ア　かなり満足している
イ　少し満足している
ウ　あまり満足していない
エ　ほとんど満足していない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 20 | 59 | 24 | 9 | 6 |

（人）



中学校



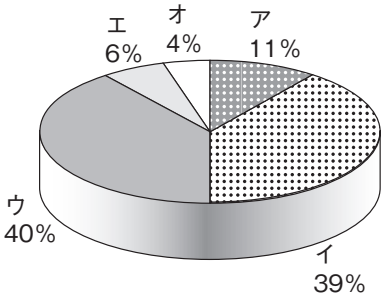
小学校

## 設問４　あなたの学校の校内研修の内容や進め方は，あなたにとって負担になっていますか？

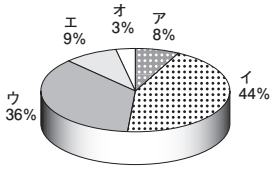
ア　かなり負担になっている
イ　少し負担になっている
ウ　あまり負担になっていない
エ　ほとんど負担になっていない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 13 | 46 | 47 | 7 | 5 |

（人）



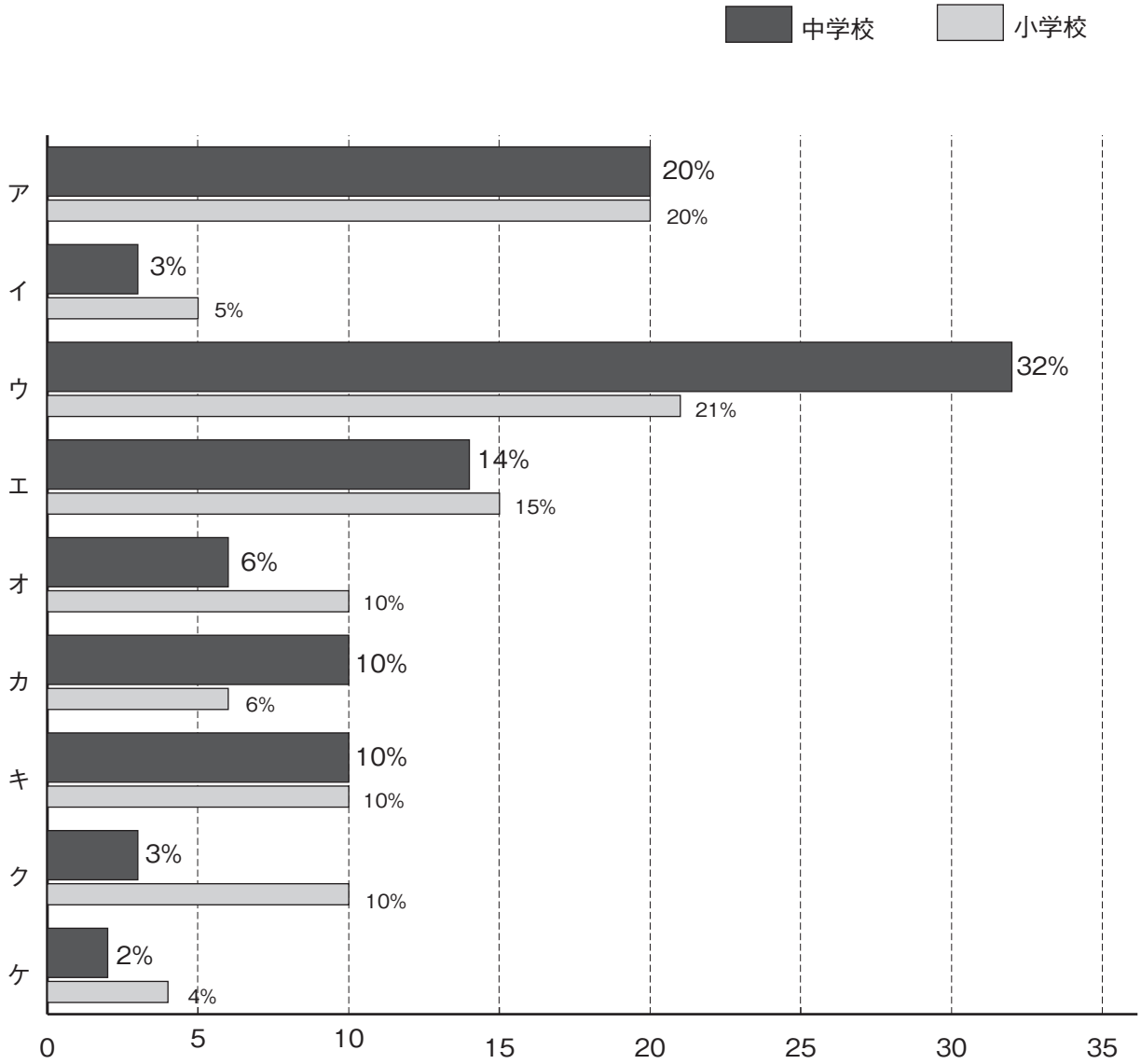
中学校



小学校

## 設問５　あなたの学校の校内研修の内容について，あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

ア　研修する内容が多過ぎるのでもっと精選する
イ　研修する内容が限られているのでもっと広げる
ウ　日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる
エ　今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる
オ　実技研修をもっと多くする
カ　職員の意見や要望を積極的に取り入れる
キ　改善すべきことはない
ク　この４月，転入したばかりで何ともいえない
ケ　その他（自由記述）




| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 24 | 3 | 38 | 16 | 7 | 12 | 12 | 4 | 2 |

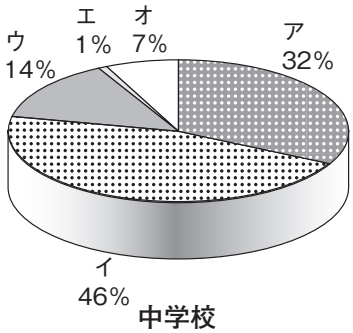
（人）

## 設問６　あなたの学校の校内研修の重点（研究テーマ）について，あなたは納得していますか？

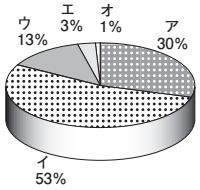
ア　かなり納得している
イ　少し納得している
ウ　あまり納得していない
エ　ほとんど納得していない
オ　理解していないので何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 38 | 54 | 17 | 1 | 8 |

（人）




中学校



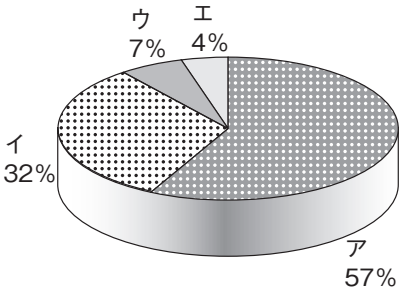

小学校

## 設問７　校内研修で取り上げる内容は多種多様です。あなたは，校内研修の一つとして授業研究を取り入れることについてどう思いますか？

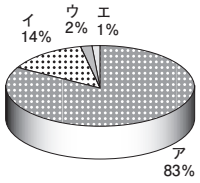
ア　授業力を伸ばす上でかなり有益である
イ　授業力を伸ばす上で少し有益である
ウ　授業力を伸ばす上であまり有益ではない
エ　授業力を伸ばす上でほとんど有益ではない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 67 | 38 | 8 | 5 |

（人）




中学校



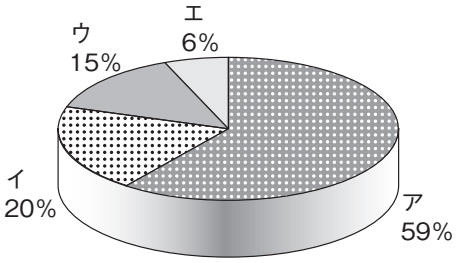

小学校

## 設問８　中学校の校内研修について，「専門教科にとらわれることなく全員で授業を参観し，授業の在り方や指導法について話し合い，互いに授業力を伸ばし合うことが大切である」という意見があります。あなたは，この意見についてどう思いますか？

ア　専門教科にとらわれることなく，全員参加の授業研究を行うのがよい
イ　全員に共通する道徳の授業などに限定して，全員参加の授業研究を行うのがよい
ウ　専門教科以外の授業を参観しても有益な話し合いができないので，全員参加の授業研究はしない方がよい
エ　その他（自由記述）

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 70 | 24 | 17 | 7 |

（人）




中学校

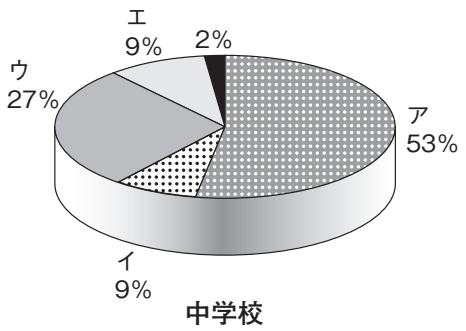
## ⑵　授業研究について

### 設問９　あなたの学校では，全員参加の授業研究をしていますか？

ア　授業者の専門教科の授業を全員で参観する授業研究を実施している
イ　全員に共通する道徳等の授業を全員で参観する授業研究を実施している
ウ　全員参加の授業研究は，実施していない
エ　その他（自由記述）

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | 無答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 61 | 10 | 32 | 11 | 2 |

（人）

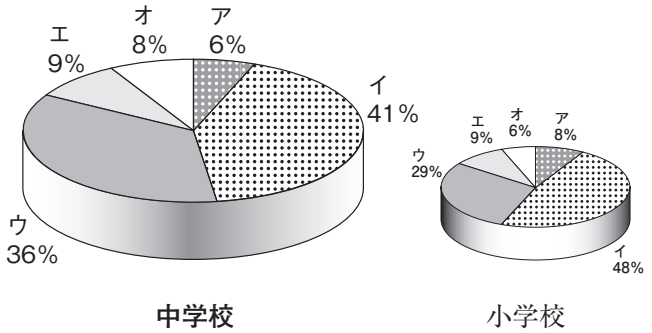



### 設問10　あなたの学校の授業研究は，楽しいですか？

ア　かなり楽しい
イ　少し楽しい
ウ　あまり楽しくない
エ　ほとんど楽しくない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 7 | 48 | 42 | 10 | 9 |

（人）

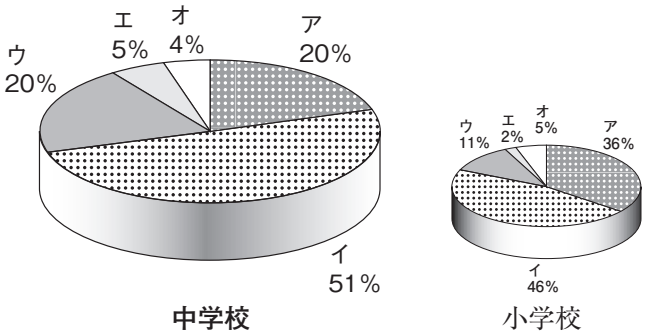



### 設問11　あなたの学校の授業研究は，あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

ア　かなり役に立っている
イ　少し役に立っている
ウ　あまり役に立っていない
エ　ほとんど役に立っていない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 23 | 59 | 23 | 6 | 5 |

（人）

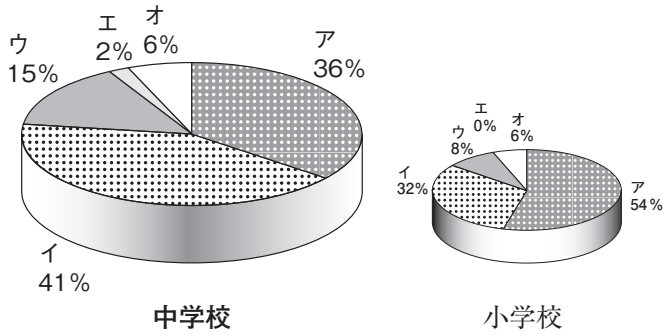


## 設問12　あなたは，あなたの学校の授業研究に積極的に参加していますか？

ア　かなり積極的に参加している
イ　少し積極的に参加している
ウ　あまり積極的に参加していない
エ　ほとんど積極的に参加していない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 42 | 48 | 17 | 2 | 7 |

（人）

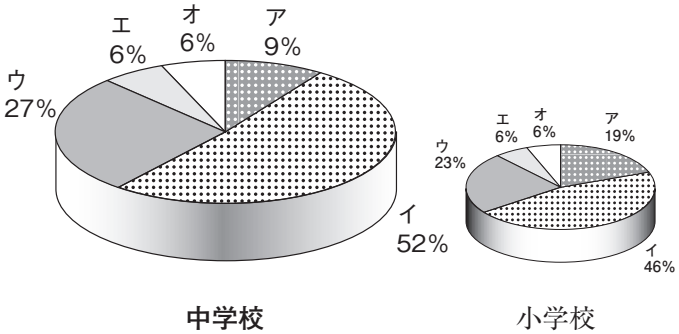



## 設問13　あなたは，あなたの学校の授業研究について満足していますか？

ア　かなり満足している
イ　少し満足している
ウ　あまり満足していない
エ　ほとんど満足していない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 11 | 60 | 31 | 7 | 7 |

（人）

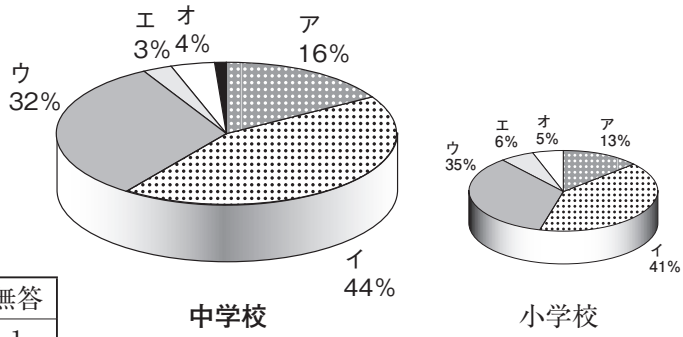



## 設問14　あなたの学校の授業研究は，あなたにとって負担になっていますか？

ア　かなり負担になっている
イ　少し負担になっている
ウ　あまり負担になっていない
エ　ほとんど負担になっていない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

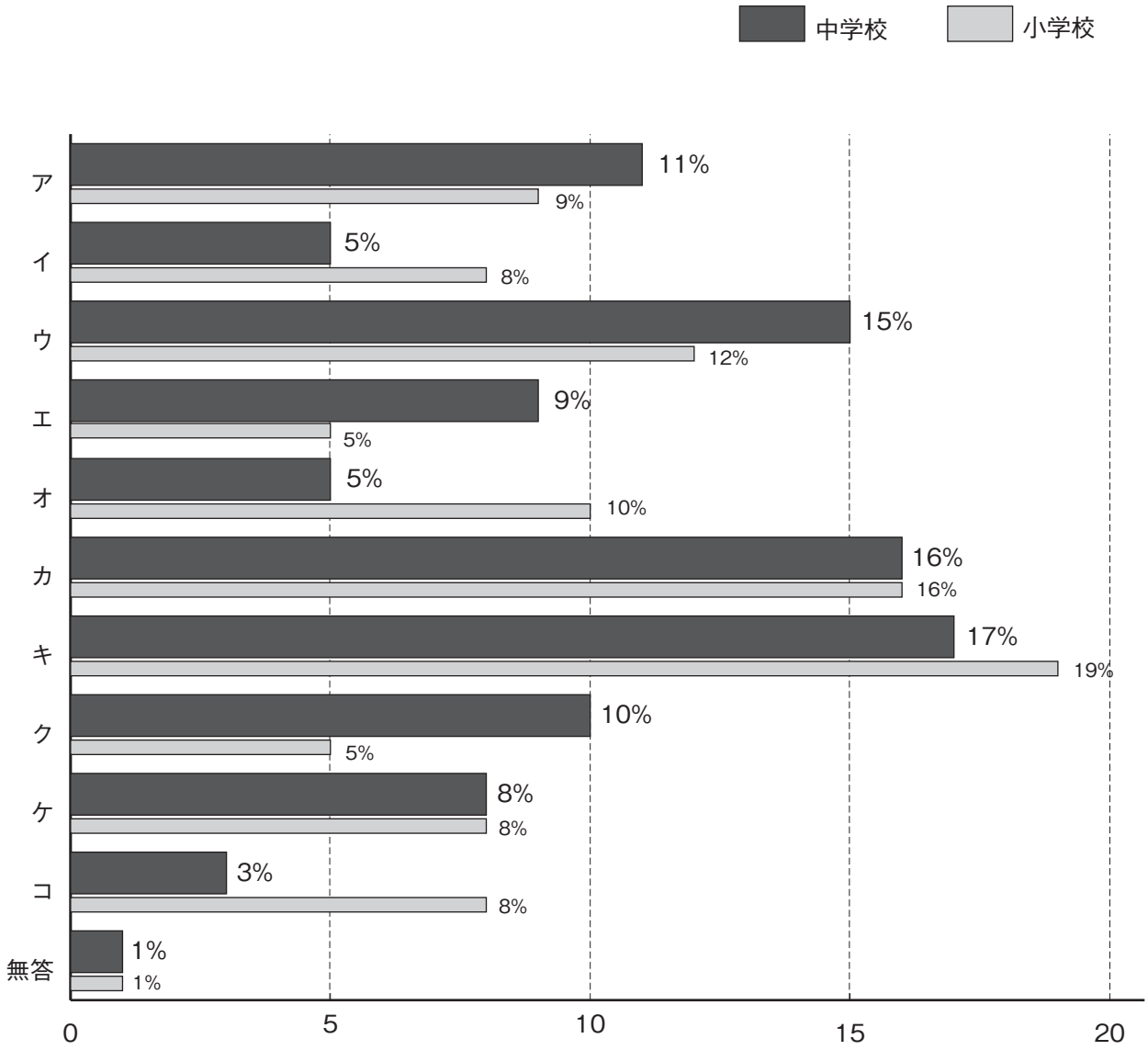
| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ | 無答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 19 | 51 | 37 | 3 | 5 | 1 |

（人）



## 問15　あなたの学校の授業研究について，あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

ア　研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする
イ　授業者の考えを尊重して指導案の検討をする
ウ　授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする
エ　授業を批判し合うだけの授業分析会をなくす
オ　感想を述べ合うだけの授業分析会をなくす
カ　外部講師を招き授業について多面的に考え合う授業分析会にする
キ　全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする
ク　授業研究にもっと真剣に取り組むようにする
ケ　改善すべきことはない
コ　その他（自由記述）

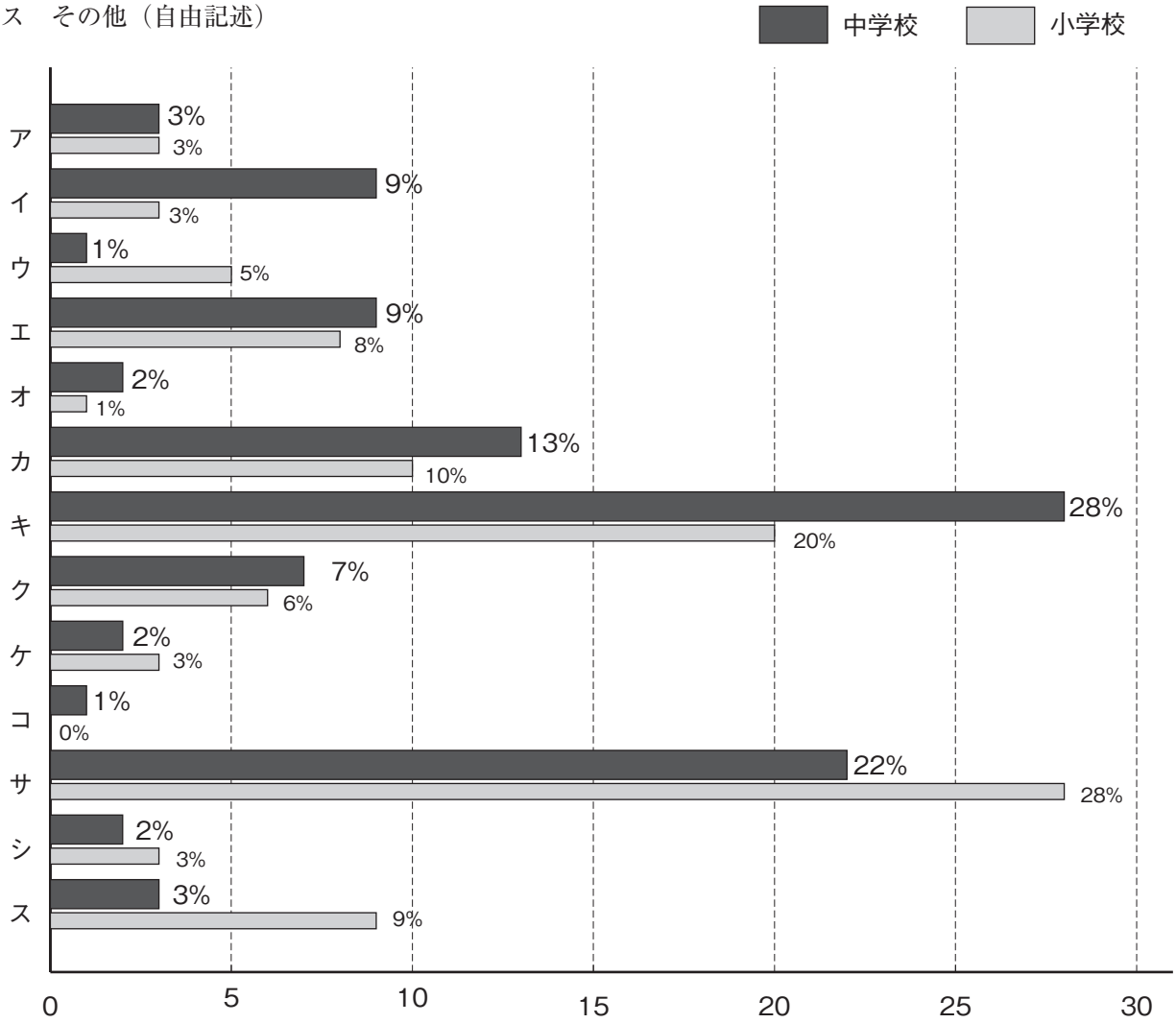



| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ | コ | 無答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 13 | 6 | 17 | 10 | 6 | 18 | 20 | 12 | 9 | 4 | 1 |

（人）

## 設問16　あなたが研究授業をしたとき，一番いやだったことはどんなことですか？

ア　授業のよい所にはあまり触れず悪い所だけを厳しく指摘された
イ　指導案検討のときは何も言わないでいて授業分析会でいろいろ批判された
ウ　何回も指導案の書き直しをさせられた
エ　授業の問題点の指摘だけで改善策が示されなかった
オ　授業中のちょっとしたミ　スを仰々しく指摘された
カ　せっかく授業をしてもあまり意見が出なかった
キ　指導案づくり・教材準備などでとても忙しかった
ク　指導案がなかなか書けず困った
ケ　授業研究がマンネリ化していて本気で研究授業に取り組んでも得るものがない
コ　授業者のいい分を聞くことなく一方的に授業分析が進められた
サ　いやだったことはあまりない
シ　まだ研究授業をしたことがない
ス　その他（自由記述）

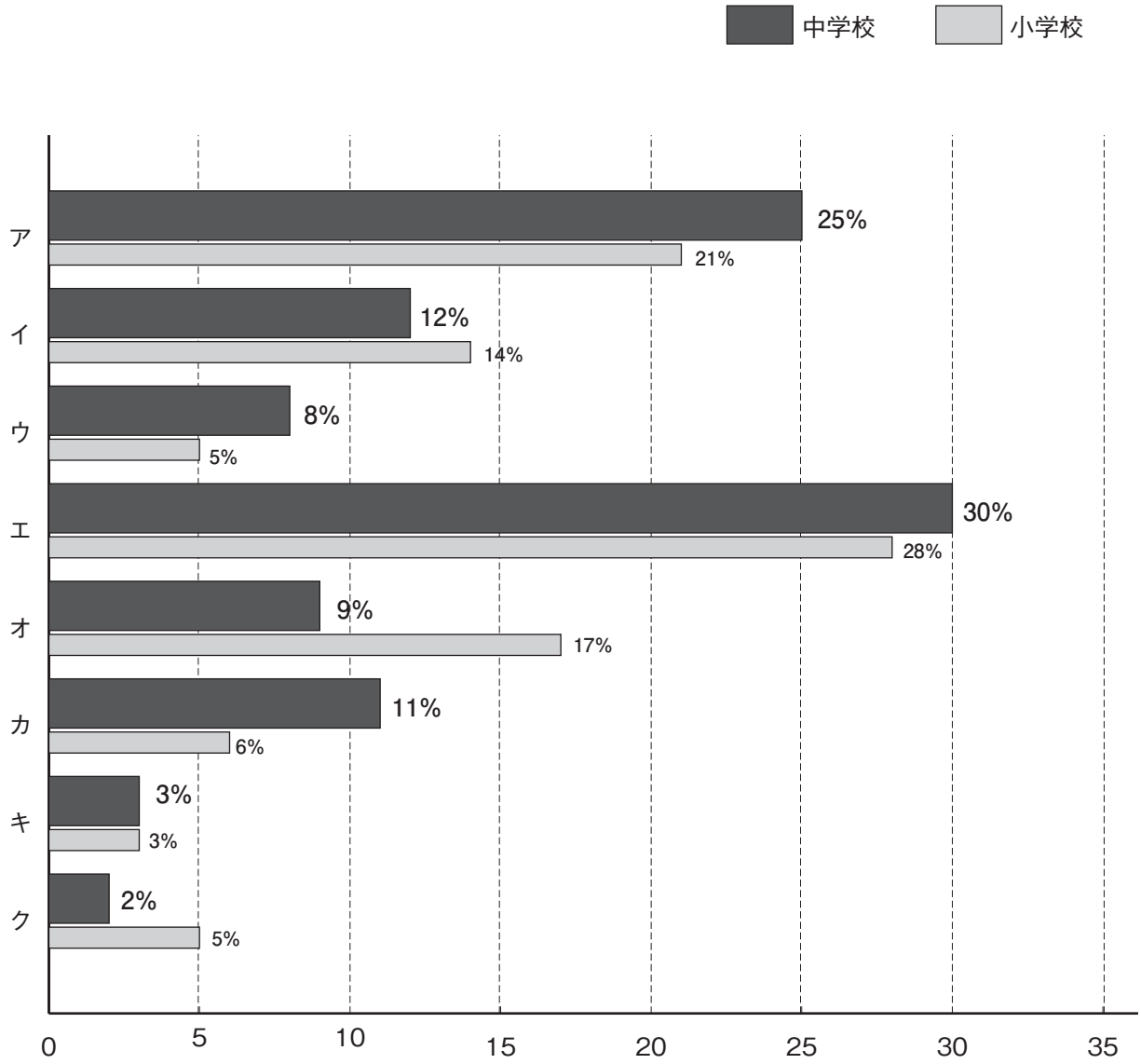



| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ | コ | サ | シ | ス |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 3 | 10 | 1 | 10 | 2 | 15 | 32 | 8 | 2 | 1 | 25 | 3 | 4 |

（人）

## 設問17　あなたが研究授業をしたとき，一番うれしかったことはどんなことですか？

ア　研究授業をするまでの努力や授業のよい所を認めてもらい励みになった
イ　指導案づくりで困っているとき，親身になって手伝いや助言をしてもらった
ウ　子どもが普段の授業以上によく動き，思い通りの授業ができた
エ　研究授業を通して自分の指導力を高めることができた
オ　研究授業をきっかけにして子どもが伸びた
カ　うれしかったことはあまりない
キ　まだ研究授業をしたことがない
ク　その他（自由記述）




| 回答項目 | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答者数 | 29 | 14 | 9 | 35 | 11 | 13 | 3 | 2 |

（人）

# Ⅲ章　調査結果の考察

◇各選択肢の回答状況を示す百分率は，すべて整数になるよう調整した。

◇考察は，各選択肢ごとの百分率や，「かなり」と「少し」を肯定的回答として，「あまり」と「ほとんど」を否定的回答として合わせた百分率に基づいて行った。
また，前年度，小学校教員に同じ設問をしている場合は，小学校の調査結果との比較も取り入れながら行うようにした。

# Ⅲ章　調査結果の考察

## 1　校内研修全般について

**【設問１】　☞やはり役立つ校内研修**

**校内研修の有用性についての回答状況**

・「かなり役立っている」は18％（小39％）,「少し役立っている」は64％（小49％）。「役立っている」という肯定的回答は82％（小88％）。

・「あまり役立っていない」は９％（小８％），「ほとんど役立っていない」は４％（小１％）。「役立っていない」という否定的回答は13％（小９％）。

「役立っている」と肯定的に回答した教員は82％であり，５人のうちの４人の割合である。中学校においても，役立っていると感じている教員は多い。

小学校と比較すると，「かなり役立っている」は21ポイントの減，逆に「少し役立っている」は15ポイントの増であり，この増減を合わせと，「役立っている」と肯定的に回答した教員は６ポイントの減である。小学校に比べ，校内研修についての評価はやや低い状態にある。

個別的に見ると，「かなり役立っている」と回答した教員は，小学校に比べ21ポイントの減であり，比率的には１/２以下の割合である。82％という肯定的回答から判断すると問題はないが，「かなり役立っている」が少ないことからして，校内研修の企画・運営について再検討することが必要である。

校内研修の有用性を高めるには，①専門教科等の指導力向上に役立つ研修か否か，②日々の実践や今日的な課題解決に役立つ研修か否か，③教員や生徒の実態に即した研修か否か，④運営方法を工夫した研修か否か，の４つの観点から検討し，自校の実態に即した改善が必要である。

## 【設問２】 ☞教員の８割が積極的に参加している校内研修

**校内研修の参加態度についての回答状況**

・「かなり積極的に参加している」は45％（小56％），「少し積極的に参加している」は36％（小35％）。「積極的に参加している」という肯定的回答は81％（小91％）。

・「あまり積極的に参加していない」は13％（小６％），「ほとんど積極的に参加していない」は２％（小０％）。「積極的に参加していない」という否定的回答は15％（小６％）。

「積極的に参加している」と肯定的に回答した教員は81％であり，５人のうちの４人の割合である。中学校においても，多くの教員が積極的に参加している。

また，この81％という数値は，【設問１】において「役立っている」と肯定的に回答した比率の82％と符合しており，有用性の認定と参加態度の間には相関関係があることを示している。

しかし，小学校と比較すると，「かなり積極的に参加している」は11ポイントの減であり，その減少分がほぼそのままスライドする形が他の回答に表れている。さらに，小学校においては，「積極的に参加していない」という否定的な回答は２％であったが，中学校においては15％もいる。

小学校に比べ，生徒指導上の問題解決や部活指導などにより多くの時間が割かれ，校内研修に集中できにくい現状にあることが要因として考えられる。

## 【設問３】 ☞満足度はそう高くない校内研修

**校内研修の満足度についての回答状況**

・「かなり満足している」は17％（小19％），「少し満足している」は50％（小55％）。「満足している」という肯定的回答は67％（小74％）。

・「あまり満足していない」は20％（小20％），「ほとんど満足していない」は８％（小２％）。「満足していない」という否定的回答は28％（小22％）。

「満足している」と肯定的に回答した教員は67％である。また，「満足していない」と否定的に回答した教員は28％である。満足度はそう低くはないものの，けして好ましい状態とはいえない。

小学校と比較してみると，「かなり満足している」は２ポイントの減，「少し満足している」は５ポイントの減。合わせて「満足している」という肯定的な回答は７ポイントの減である。小学校も高いとはいえないが，それよりもさらに低い状態にある。

また，「満足している」と肯定的に回答した教員は，［設問１］の「役立っている」と肯定的に回答した教員より15ポイントの減，逆に，「満足していない」と否定的に回答した教員は，［設問１］の「役立っていない」と否定的に回答した教員の２倍を超える15ポイントの増である。これは，多くの教員が校内研修の有用性を認めつつもその割に満足度が低く，現状のままで一人一人の抱く期待に十分応えていないことを示している。

校内研修の満足度が低いということは，校内研修を通して教師一人一人が指導力の向上を実感していないということである。研修の内容や進め方の両面から，さらなる見直しが必要である。

## 【設問４】 ☞半数の教員が負担に感じている校内研修

**校内研修の負担感についての回答状況**

・「かなり負担になっている」は11％（小８％），「少し負担になっている」は39％（小44％）。「負担になっている」という肯定的回答は50％（小52％）。

・「あまり負担になっていない」は40％（小36％），「ほとんど負担になっていない」は６％（小９％）。「負担になっていない」という否定的回答は46％（小45％）。

「負担になっている」と肯定的に回答した教員は50％，「負担になっていない」と否定的に回答した教員は46％である。負担感についての回答は，相半ばしている。

中学校の校内研修は，教科の専門性を高めると同時に生徒指導や情報教育に関する指導等幅広い分野にわたる指導性の向上を目指すことから，かなりハードな研修にならざるを得ない。また，そもそも研修は，本来，手軽に，楽にできるものではなく，かなりの努力を必要とする営みである。

したがって，半数の教員が負担に感じているからといって，そのことが即，大きな

問題とはいえない。研修の過程においてはさまざまな困難や苦しさが伴うが，そのことを率直に回答した結果であり，校内研修に真剣に立ち向かっている証とみることができる。

問題があるとすれば，「負担になっていない」と回答した教員が比較的多いということではないだろうか。常識的に見て，小学校より忙しいといわれる中学校において，「負担になっていない」という回答が，わずかとはいえ小学校を１ポイント上まわっているのは不思議な結果である。もしかしたら，校内研修が安易に進められてはいないか。一人一人の校内研修への立ち向かい方，真剣みが足りないのではないか。そんな心配がある。

校内研修の方向としては負担感の軽減が望ましいが，校内研修の特質を十分踏まえた上での改善が必要である。負担を軽減する改善が，結果として校内研修の縮小につながったり，中身のない薄っぺらな研修で満足したりするようであれば，本末転倒である。

## 【設問５】 ☞役立たない研修が多い校内研修

**校内研修の改善点についての回答状況**

・１位は「日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる」の32％
（小　１位　21％）。

・２位は「研修する内容が多すぎるのでもっと精選する」の20％
（小　２位　20％）。

・３位は「今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる」の14％
（小　３位　15％）。

改善点の１位は，「日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる」である。この項目が第１位になるのは小学校と同じであるが，小学校は21％，中学校は32％という数値が示す通り，中学校はかなり高い比率である。

実用性が校内研修の改善点にあがるのは，日々，生徒との対応や指導において苦慮していることの裏返しであり，校内研修に期待するものが何であるのかを示している。また，近年，学校の実態にかかわりなく一律に，教育委員会の指示に基づく必修の研修が多くなりつつあるが，このことも大いに関係しているといえよう。

２位は,「研修する内容が多すぎるのでもっと精選する」である。この項目が第２位になるのも小学校と同じであり，その上，偶然にもその比率までもぴったり同じである。

精選が校内研修の改善点にあがるのは，年を追うごとに校内研修で取り扱う内容が多くなっていることに原因がある。情報モラル教育やキャリア教育など，多様な教育ニーズに応える研修等々，研修内容は際限なくふくらむばかりである。形式的な校内研修を排し，実りある実質本位の校内研修が必要である。

３位は,「今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと取り上げる」の14％である。小学校の場合と同じ順位であり，比率も１ポイントの差しかない。これまた小学校と同じといってよい。

知識基盤社会に対応した創造的な知性の育成，情報モラル教育，キャリア教育等々，次々と新しい内容が付け加わる中学校教育である。これに伴って校内研修も,「従来の研修内容を踏襲する校内研修」から「今日的な教育課題に対応した校内研修」に変わっていかなければならない。校内研修の全体計画を見直し，新しい教育課題に応える研修が十分に組み込まれているか再度点検することが必要である。

## 【設問６】 ☞目標が共有されている校内研修

**研究テーマの納得度についての回答状況**

・「かなり納得している」は32％（小30％),「少し納得している」は46％（小53％)。「納得している」という肯定的回答は78％（小83％)。

・「あまり納得していない」は14％（小13％),「ほとんど納得していない」は１％（小３％)。「納得していない」という否定的回答は15％（小16％)。

研究テーマについて「納得している」と肯定的に回答した教員は78％であり，教科担任制の中学校にしてはかなり高率の回答である。それぞれ専門教科が異なる中にあって，研究テーマを共有することは口で言うほど簡単なことではない。そうでありながら，研究テーマを共有して研修が進められていることは，それなりの努力と工夫があってのことであり，好ましい状況にあるといえる。

一方，15％の教員が「納得していない」と否定的に回答している。校内研修が組織的に，協同的に行われることを考えると，研修テーマについて納得していない教員が

いることは大きなマイナスである。「少数の教員でしかない」「納得しない方が悪い」等々の見方・考え方に立つことなく，謙虚に研究テーマについての協議過程（提案－協議－決定）及び内容について再検討することが必要である。

## 【設問７】 ☞圧倒的に支持の多い授業研究を取り入れた校内研修

**授業研究を取り入れた校内研修の是非についての回答状況**

・「授業力を伸ばす上でかなり有益である」は57％（小83％），「授業力を伸ばす上で少し有益である」は32％（小14％）。「授業力を伸ばす上で有益である」という肯定的回答は89％（小97％）。

・「授業力を伸ばす上であまり有益ではない」は７％（小２％），「授業力を伸ばす上でほとんど有益ではない」は４％（小１％）。「授業力を伸ばす上で有益ではない」という否定的回答は11％（小３％）。

「授業力を伸ばす上で有益である」と肯定的に回答した教員は89％である。小学校と比べて８ポイントの減になっているものの，当教育研究所の予想を超えた高い回答率である。中学校においても，多くの教員が，校内研修の１つとして授業研究を取り入れることを支持している。

かつて，中学校の授業は，「講義式でわかりにくい」「教師主導でおもしろくない」等々と批判されることが多かった。しかし，今や，中学校の教員の間でも授業研究の価値が認識され，実践的に授業を改善しようとする風土に変わりつつある。授業に対する見方・考え方の変化を物語る新しい動きとして注目したい。

その一方で，「授業力を伸ばす上で有益ではない」と否定的に回答した教員が11％もいる。10人に１人の割合であり，小学校の３％と比べるとおよそ４倍にもなる。

授業力は，「深い教材研究」と「適切な学習活動の組織」と「巧みな教育技術」の３つの力の総合体である。しかも，その授業力は，授業の実際を通して実践的に身に付けるしか方法はない。

それにもかかわらず，10人に１人は，授業力を高める上で，授業研究は有益でないと考えている。こうした教員は，どこで，どのようにして授業力を身に付けるのか。そもそも授業力を高めようとする意欲があるのか。心配になる。

授業研究の価値や意義を認めようとしない教員の意識改革をどう進めるのか。中学

校の抱える古くて新しい問題であり，校内研修の改革を進める上で最も大きな課題の１つである。

## 【設問８】 ☞大方の教員が賛成する全員参加の授業研究

**全員参加型の授業研究の是非についての回答状況**

・「専門教科にとらわれることなく，全員参加の授業研究を行うのがよい」は59％。

・「全員に共通する道徳の授業などに限定して，全員参加の授業研究を行うのがよい」は20％。

・「専門教科以外の授業を参観しても有益な話し合いができないので，全員参加の授業研究はしない方がよい」は15％。

・「その他（自由記述）」は６％。

※記述内容を見ると，実態によって変わるので判断しかねるという回答が多い。

授業研究の対象教科については考えの違いがあるものの，全員参加型の授業研究に賛成の教員は79％である。およそ８割の教員であり，教科担任制による授業システムの中学校であることを考えると，かなり高い数値といえる。ただ，２割弱の教員は，専門教科以外の授業研究は否定的に見ている。

また，授業研究の対象教科について見ると，「専門教科にとらわれることなく」と考える教員は59％であり，およそ６割といえる。「その他」を含め残りのおよそ４割は，専門教科を公開する授業研究はよくない」と考えている。

互いに専門的な知識がなければ有益な話し合いはできないという考えは，専門家を自認する者が陥りがちな誤った考え方である。長い間，中学校においてはこの考え方が主流を占め，授業研究は教科部ごとに行われていた。しかし，今や，その中学校においても，教科横断的に考えようとする動きが有力になっている。中学校は変わりはじめた，といってよいだろう。

## ２　授業研究について

**【設問９】　☞半数の学校で実施している専門教科による授業研究**

**授業研究の実施状況についての回答状況**

・「互いの専門教科の授業を全員で参観する授業研究を実施している」は53％。

・「だれもに共通する道徳等の授業を全員で参観する授業研究を実施している」は９％。

・「全員参加の授業研究は実施していない」は27％。

・「その他（自由記述）」は９％。

※自由記述の多くの内容は，システムとして全員参加ではないが，自由に参観できるようになっているという自校の授業研究の紹介である。

「互いの専門教科の授業を全員で参観する授業研究を実施している」と回答した教員は，53％である。本調査は同一校に複数の回答者がいる場合もあり，この53％を学校比率と見なすことは妥当ではないが，それに近いことは間違いない。だとすると，およそ２校のうちの１校の割合である。中学校の授業研究の動向を知る貴重なデータであり，積極的に教科横断的な授業研究が実施されていることに賛意を表したい。

「だれもに共通する道徳等の授業を全員で参観する授業研究を実施している」と回答した教員は，９％である。「全員参加の授業研究」という点では評価できる。同じ授業を材料に議論し，よりよい方法を求め合うことは，指導力の向上はもちろんのこと，教師集団の文化も変わることが期待できる。

ところで,「全員参加の授業研究は実施していない」と回答した教員は,27％である。また,「その他」と回答した９％の教員のほとんどは,「自由に参観できるが，全員参加のシステムではない」という内容である。この２つを合わせると,「全員参加の授業研究をしない」が36％であり，４割弱にも及ぶ。

設問の回答として具体的に示すことはできないが，この４割弱の学校においては，旧態依然の教科部単位の授業研究が行われているものと推察できる。教科の狭い枠に閉じこもった授業研究では限界があり，改革が必要である。管理職の強力なシーダーシップが求められている。

## 【設問10】 ☞半数の教員は楽しくない授業研究

**授業研究の楽しさについての回答状況**

・「かなり楽しい」は６％（小８％），「少し楽しい」は41％（小48％）。「楽しい」という肯定的回答は47％（小56％）。

・「あまり楽しくない」は36％（小29％），「ほとんど楽しくない」は９％（小９％），「楽しくない」という否定的回答は45％（小38％）。

授業研究について「楽しい」と肯定的に回答した教員は47％であり，半数を下回っている。しかも，「かなり楽しい」と回答した教員は，わずか６％に過ぎない。さらに，「楽しくない」と否定的に回答した教員は45％にも及び，ほぼ半数の教員である。半数の教員にとって，授業研究は楽しくない。これが，中学校の授業研究の現状である。

授業研究の「楽しさ」とは，よりよい授業の在り方を探る探求心や知的好奇心を刺激する「インタレストとしての楽しさ」である。いわゆるゲームをして楽しいというような「アミューズメントとしての楽しさ」ではない。授業研究そのものは教師修行であり，けっして楽な営みではない。楽な営みでないことを承知の上で，一人一人の教師にとって，授業研究は楽しいものであって欲しいと願う。

【設問７】で見たように，「授業力を伸ばす上で授業研究は有益である」と肯定的に回答した教員は89％であり，大多数の教員といってよい。それにもかかわらず教員の半数が，授業研究を楽しくないという。

また，【設問９】で見たように，互いの専門教科の授業を全員で参観する授業研究を実施している学校は，およそ２校のうち１校の割合である。このこと自体は評価しなければならないが，「楽しくない」という否定的な回答が半数近くあることを考えると，実際の授業研究の進め方に問題があることを示してはいないか。

長期的にみれば，授業研究が日常的に行われるようになれば自ずと改善されていくに違いないが，だからといってなりゆきに任せてしまうことは正しい対応ではない。授業研究を実施する度に，意図的に授業研究の内容や方法について評価し，改善策を立てることが必要である。すべての学校に期待したい。

## 【設問11】 ☞ 7割の教員が役立つと感じている授業研究

**授業研究の有用性についての回答状況**

・「かなり役立っている」は20％（小36％）,「少し役立っている」は51％（小46％）。「役立っている」という肯定的回答は71％（小82％）。

・「あまり役立っていない」は20％（小11％），「ほとんど役立っていない」は６％（小２％），「役立っていない」という否定的回答は26％（小13％）。

授業研究について，71％の教員が「役立っている」と肯定的に回答している。この数値を高いと見るか，それとも，低いと見るかは意見の分かれるところであるが，10人のうちの７人の割合である。授業研究は，それなりに役立っているといってよいだろう。

ただ，小学校と比較すると，11ポイントの減である。また，【設問１】の校内研修全般の有用性については82％の教員が「役立っている」と肯定的に回答しているが，これと比較しても11ポイントの減である。

こうしたことから，中学校における授業研究は，大方の教員の指導力向上に役立っているものの，教科担任制のもとでの授業研究であることから，小学校の授業研究にはない克服すべき課題があることを示している。

たとえば，専門教科でないのに専門的な知見を要求される授業研究，逆に，教科の専門性や独自性を無視して進められる授業研究等々である。授業研究を実施しているという形式が大事なのではなく，「授業改善に役立つ」という内実が重要である。それを阻害しているものは何か。改めて問い直しが必要である。

## 【設問12】 ☞大半の教員が積極的に参加している授業研究

**授業研究の参加態度についての回答状況**

・「かなり積極的に参加している」は36％（小54％），「少し積極的に参加している」は41％（小32％）。「積極的に参加している」という肯定的回答は77％（小86％）。

・「あまり積極的に参加していない」は15％（小８％），「ほとんど積極的に参加していない」は２％（小０％）。「積極的に参加していない」という否定的回答は17％（小８％）。

授業研究に「積極的に参加している」と肯定的に回答した教員は77％，「積極的に参加していない」と否定的に回答した教員は17％である。この数値と【設問２】の校内研修全般についての参加態度のデータを比較すると，「積極的に参加している」は４ポイントの減，「積極的に参加していない」は２ポイントの増であるが，そう大きな違いはない。これは，授業研究だからといって，他の研修のときに比べて参加態度が大きく変わることはないことを示している。

また，小学校と比較すると，「積極的に参加している」と肯定的に回答した教員は９ポイントの減であるが，77％というかなり高い比率であり，問題にしなければならないほど悪くはない。

楽しくてわかりやすい授業を工夫するのは小学校。教科内容に縛られて教え込むことに汲々としている中学校。こんな対比的表現で小・中学校の授業について語られることが多いが，実態は事実に反する。中学校の教員も，授業について真剣に考えている。それを裏付ける貴重なデータである。

## 【設問13】 ☞満足度が低い授業研究

**授業研究の満足度についての回答状況**

・「かなり満足している」は９％（小19％),「少し満足している」は52％（小46％)。「満足している」という肯定的回答は61％（小65％)。

・「あまり満足していない」は27％（小23％),「ほとんど満足していない」は６％（小６％)。「満足していない」という否定的回答は33％（小29％)。

授業研究に「満足している」と肯定的に回答した教員は61％である。小学校の場合は65％であり，これをわずかに上回っているが，授業研究の満足度は小学校と同程度であるいえる。ただ内訳を見ると，小学校と比べ,「かなり満足している」が10ポイントの減であり，高い満足度の教員は少ない。

問題は，授業研究に「満足していない」と否定的に回答した教員が33％もいることである。３人のうちの１人という高い割合である。同じ授業研究であっても，大きな期待を抱いている場合とそうでない場合とでは,自ずと満足度は変わる。したがって,満足度が低い教員が多いということは，授業研究の進め方に問題があるということと同時に，授業研究に期待する教員が多いということを示している。

現状の授業研究の満足度は必ずしも望ましい状況とはいえないが，授業研究の改善を通して満足度を高めることは可能である。自校の授業研究の満足度を点検しながら具体的に改善することが必要である。

## 【設問14】 ☞小学校より負担感が強い授業研究

**授業研究の負担感についての回答状況**

・「かなり負担になっている」は16％（小13％),「少し負担になっている」は44％（小41％)。「負担になっている」という回答は60％（小54％)。

・「あまり負担になっていない」は32％（小35％),「ほとんど負担になっていない」は３％（小６％)。「負担になっていない」という回答は35％（小41％)。

「負担になっている」と回答した教員は60％，「負担になっていない」と回答した教員は35％であり，およそ５人のうちの３人が負担に感じている割合である。

さらに校内研修全般の場合と比較すると，「負担になっている」は10ポイントの増，逆に「負担になっていない」は11ポイントの減である。

このデータは，大方の教員にとって授業研究は負担になっていることを示しているが，小学校の場合と比較してみると，「負担になっている」は６ポイントの増，「負担になっていない」は６ポイントの減である。小学校の教員より中学校の教員の方が負担感を強く感じていることがわかる。

授業研究は教師の本務である授業の指導力向上を目指すものであり，もともと負担感を伴う教師修行である。楽をして，手軽に進められるものではない。こうした授業研究の特質を考えると，負担感を感じている教員が過半数を超えているからといって，授業研究に取り組むことを否定的に見なすことは早計である。

問題があるとすれば，それは仕事量が常識的な範囲を超えていたり，授業を通して切磋琢磨し合う厳しさ以外の要因で負担感が生じている場合である。安易に負担感を理由に全員参加の授業研究や教科横断型の授業研究をやめたりすれば，新しい動きとなりつつある授業研究にもとずく実践的教育研究の風土が失われてしまう。各中学校において，負担感軽減の取組が真剣になされ，改善がなされることを期待したい。

## 【設問15】 ☞積極的な参加が求められる授業研究

**授業研究の改善点についての回答状況**

・１位は「全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする」の17％（小　１位　19％）。

・２位は「外部講師を招き，授業について多面的に考え合う授業分析会にする」の16％（小　２位　16％）。

・３位は「授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする」の15％（小　３位　12％）。

・４位は「研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする」の11％（小　５位　９％）。

改善点の１位は,「全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする」の17％である。

小学校の場合もこの項目が１位であり，授業研究の最大の課題は「授業研究の活性化」にあるといえる。【設問12】の授業研究への参加態度の回答では,77％の教員が「積極的に参加している」と回答している。大方の教員が積極的に参加しているにもかかわらずどうしてこのような結果になるのか。

要因についてはいろいろ考えられるが,「自由闊達に話し合える雰囲気がない」,「一人一人の教員の願いや期待と協議事項とがズレている」,「授業批判と授業者批判が混同されている」,「授業研究がセレモニー化している」等々指摘できる。

改善点の２位は,「外部講師を招き，授業について多面的に考え合う授業分析会にする」の16％である。小学校の場合もこの項目が２位である。このことから,授業の「事実」を通して新しい知見や課題を見いだしたりすることが少ないという現状の問題点が浮かび上がってくる。

改善点の３位は,「授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする」の15％である。小学校の場合もこの項目が３位である。言うまでもなく,「指導案は授業者が作るものである」ということを十分承知した上での指摘であると考える。「授業研究の課題や重点の設定までも授業者に任せる」「高邁な研究テーマを掲げるだけで，授業の方法論を示さないまま授業研究を計画する」「授業前に助言等をしないでいて，授業後にあれこれ批判だけする」等々の問題点が浮かび上がってくる。

改善点の４位は,「研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする」の11％である。これは,上記した３位の改善点と内容的には正反対であるが,指導案作成に関わる問題としてくくると，指導案作成が「授業者の創意工夫を無視して研究テーマや研究課題に従わせる」か,「授業者にすべて一任してしまう」かのどちらか一方に偏っている現実が浮かび上がってくる。

授業研究の具体的な改善こそ，授業研究への意欲，授業研究の満足感，授業研究の充実感等々を高める決め手である。授業者任せの授業研究,授業批判中心の授業研究,特定の教員だけが活躍する授業研究，権威主義が幅をきかす授業研究。こうした類の授業研究であってはならない。

## 【設問16】 ☞充実感がきめ手の授業研究

**研究授業でいやだったことについての回答状況**

・１位は「指導案づくり・教材準備などでとても忙しかった」の28％
（小　２位　20％）。

・２位は「いやだったことはあまりない」の22％（小　１位　28％）。

・３位はベスト３は「せっかく授業をしてもあまり意見が出なかった」の13％
（小　３位　10％）。

・４位は「授業のよい所にはあまり触れず，悪い所だけを厳しく指摘された」と「授業の問題点の指摘だけで改善策が示されなかった」の９％
（小　前者８位　３％。後者５位　８％。）。

研究授業をしていやだったことの１位は，「指導案づくり・教材準備などでとても忙しかった」の28％である。日常の教育業務を果たしながらの研究授業に向けた準備になるため，かなりあわただしい毎日になることが予想されるが，調査結果もそのことを裏付けている。小学校と比較すると，８ポイントの増であり，順位も上がってトップである。

充実感があれば，少々の繁忙は苦にならない。達成感があれば，忙しさはやり終えた満足感を大きくする。こう考えると，現状は，充実感が少なく、徒労感の多い授業研究に陥っているといえる。

２位は，「いやだったことはあまりない」の22％である。５人に１人の割合である。小学校と比較すると，６ポイントの減であり，順位が１つ下がって２位である。

研究授業に対してマイナスイメージをもたない教員がいることは，今後の授業研究に希望がもてる。また，学校によっては，「充実感や達成感のある授業研究」が展開されていることを示している。すべての学校において，「苦しいけど，やりがいがある授業研究」を期待したい。

３位と４位は，授業後の検討会の在り方についての問題指摘であるという点では共通している。４位の２項目と３位を合わせると31％にも及ぶ。【設問15】の授業研究の改善点でも，改善点の１位と２位に授業後の分析会の在り方が挙げられている。小学校の場合も，授業後の分析会を問題にする教員が多い。

授業者は万全の準備をし，授業を公開する。当然のことであるが，授業構想について，授業中の対応ついて，授業の「事実」に基づいて真摯な意見交換が行われることを期

待する。しかし，現状の検討会はそうなっていない。協議題の設定，一人一人の参加態度，協議の進め方，成果と課題の集約等々，協議会そのものの改善が必要である。

## 【設問17】 ☞伸びた実感と信頼感を生み出す授業研究

**研究授業でうれしかったことについての回答状況**

・１位は「授業研究を通して自分の指導力を高めることができた」の30％（小　１位　28％）。

・２位は「研究授業をするまでの努力や授業のよい所を認めてもらい励みになった」の25％（小　２位　21％）。

・３位は「指導案づくりで困っているとき，親身になって手伝いや助言をしてもらった」の12％（小　４位　14％）。

・４位は「うれしかったことはあまりない」の11％（小　５位　６％）。

研究授業をしてうれしかったことの１位は，「授業研究を通して自分の指導力を高めることができた」の30％であり，およそ３人のうちの１人の割合である。小学校と比較すると，２ポイントの増であり，順位は同じ１位である。

授業研究は，教員一人一人の指導力の向上を目指して行うものである。その授業研究所の趣旨に即した回答が１位であることは，誠に喜ばしいことである。

２位は，「研究授業をするまでの努力や授業のよい所を認めてもらい励みになった」の25％である。４人に１人の割合である。小学校と比較すると，４ポイントの増であり，順位は２位と変わらない。

３位は，「指導案づくりで困っているとき，親身になって手伝いや助言をしてもらった」の12％である。小学校と比較すると，２ポイントの減であるが，順位は１つ上である。

授業研究は，第一義的には，教員一人一人の指導力の向上を目指して実施するものであるが，授業研究を通して「教師集団としての凝集力や信頼感」が醸成・強化され，学校の教育力が高まるという大きな効果も期待される。２位と３位の回答は，この副次的な効果が目に見える形で上っていることを示している。これまた喜ばしいことである。

ところが，４位は，「うれしかったことはあまりない」の11％である。小学校と比較すると，５ポイントの増であり，順位は１つあがっている。

研究授業は，授業者（教師集団）のもてる力を総動員して行うリサーチワークとしての授業である。それだけに厳しい教師修行の場であるが，教師という仕事の厳しさや喜びを実感する貴重な機会でもある。にもかかわらず，「うれしかったことはあまりない」と回答する教員がいる。指導力を高めることができたという充実感，認めてもらったという満足感，子どもを伸ばすことができたという達成感，困っているときに助けてもらったというありがたさを感じたことがない教員が11％もいる。誠に残念なことである。

授業研究の改善を図る上でのポイントは２つある。１つは，授業課題についてどれだけ達成できたのか，授業に関する知見をどう広げ深めることができたのかという視点からの反省評価である。２つは，授業研究を通して，教員相互の協力関係がどう高まったのか，教員相互の信頼関係がどう深まったのかについて反省評価である。授業研究は，一人一人の教員の指導力向上を図ると共に，教師集団としてのモラルや協同態勢の向上を図ることを目指している。この２つから見て，十分でない点を改善していく努力が求められる。

# Ⅳ章　校内研修への提言

◇Ⅲ章「調査結果の考察」をもとに校内研修の改善に向けた取組についての提言である。

◇提言は，各校共通に検討いただきたいことに絞ってまとめてある。

◇校内研修については，所報「新潟教育研究」の第１号～第６号において「校内研修再考」と題して特集してきた。併せて参考にしていただければ幸いである。

# Ⅳ章　校内研修への提言

## 1　校内研修全般について

### 提言１　参画型の研修を中核に据える

①研修形態としてケーススタディー型，グループ学習型，ワークショップ型，体験型などを積極的に取り入れる。

②互いの持ち味や長所を生かし合いながら研修できるように，校内の人材を積極的に活用する。

③校内の人材では充実した研修が期待きない場合は，外部の人材又は機関を活用する。

**【提言の趣旨】**

○設問１の「校内研修の有用性についての考察」，設問３の「校内研修の満足度についての考察」に対応した提言である。

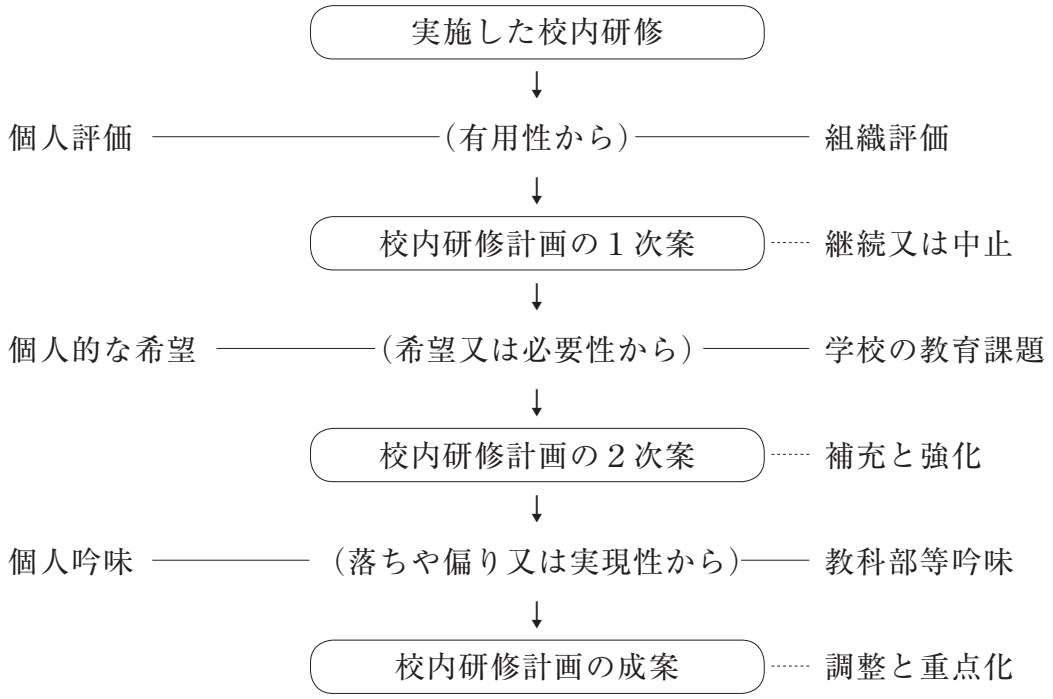
○研修内容の特質に応じて研修方法を変えることが大切である。たとえば，互いのアイデアを出し合って進める研修では，ブレーンストーミング等の手法を取り入れながら小グループて研修するのが効果的である。講義型の研修は，原則的に廃止する。

○自前の研修を基本とするが，校内の人材では質の高い研修が期待できないときは，教育センター，教育委員会，大学等の支援を積極的に求める。

**【留意点】**

○外部の人材の活用は，慎重に，かつ大胆に行う。学校の体面を考えて外部の人材の活用をためらったり，逆に，安易に考えて何でも外部の人材に頼ることがないようにする。

## 提言２　計画の策定を重層的にする




**【提言の趣旨】**

○設問２の「校内研修の参加態度についての考察」，設問３の「校内研修の満足度についての考察」に対応した提言である。

○校内研修は，指導力を高め，日々の指導を充実させることをねらいとして実施するものである。そのため，「日々の指導に役立つ」，「必要感に基づいている」，「積極的に参加する」が必須の条件である。

○教員一人一人の問題意識や必要感に応えるためには，研究計画を策定する手続きと意見を反映する仕組みを工夫することが大切である。

**【留意点】**

○研修計画は，「ねらい」「内容と方法」「日時等」を明示することを基本とするが，研修の進展状況や生徒の実態等に合わせて補充したり深めたりできる柔軟な計画にする。

## 提言３　分担と協同で推進する

①研修会を担当した個人又は分掌上の組織だけで仕事分担をしないで，研修にかかわる計画書作成，当日の運営，資料作成，対外事務等の仕事をより多くの者で分担し合う。

②事前に必要な個人研修を明確に示し，その上に立って研修会の運営をする。

③研究推進委員会や教科部等の研究組織の役割と責任を再点検し，効率的に研修を推進する。

### 【提言の趣旨】

○設問４の「校内研修の負担感についての考察」に対応した提言である。

○特定の個人又は分掌上の組織だけが準備に汗を流し，その他の教員は身一つで気楽に参加する研修会では成果があがらない。一人一人が応分の役割を果たしながら主体的に参加し，協同作業としてみんなでつくりあげる研修会にする。

○校内研修を縮小することによって負担感を軽減するのでなく，研修内容と研修方法の改善によって負担感をしのぐ充実感のある校内研修にしていく。

○研修に必要な基礎的な知識・技能については個人で自発的に研修し，その上に立って質の高い研修を目指す。

### 【留意点】

○研修である限り，相互に切磋琢磨し合うことが必要である。身内意識にとらわれてなれあいの研修に陥らないようにする。

○個々の研修会の運営は，可能な限り分掌上の該当組織に委ね，研究推進の組織だけが責任をもつような運営はしない。

○学習指導や生徒指導のみならず，部活指導や各種大会の参加等で忙しい毎日である。研修に専念できる時間を確保することが肝要である。

## 提言４　必要な研修内容にしぼり込む

①研究内容は，研究テーマの具現を目指す内容と日々の指導に直接役立つ内容に重点づける。

②識見を高める研修と実践力を培う研修のバランスをとる。

③研修内容について年次的に見通しを立てる。

④個々の研修会の話題（テーマ）は，日々の具体的な取組について話し合えるように設定する。

### 【提言の趣旨】

○設問５の「校内研修の改善点についての考察」に対応した提言である。

○どんな内容であっても，研修すればそれなりに指導力の向上に役立つ。有用だからといって，無定見に研修内容を多くするのは適切ではない。研修計画の立案にあたって大切なことは，「重点化」と「バランス」と「見通し」である。

○一般に，研修というと，研究テーマに直接かかわった内容中心になりがちである。情報モラルをはじめ多様な教育課題に対応した教育が求められる中学校においては，研究テーマだけを追い求める校内研修は避けたいものである。

○「重点化」は単年度で判断するのでなく，年次的な研修の見通しのもとに判断し，研修内容が累積的に高まるようにする。

### 【留意点】

○計画・実施した研修内容を，「研究テーマに関わる内容」と「日々の指導に直接役立つ内容」,「識見を高める研修」と「実践力を培う研修」を観点に２次元表にまとめ，自校の研修内容の偏りや落ちについて見直す。

○識見を高める研修はレベルの高い研修，実践力を培う研修はレベルの低い研修といった偏見をなくす。

○だれもが日々の実践を持ち出しながら話し合えるように，研修会の話題（テーマ）を工夫する。

## 提言５　校内研修に授業研究を位置づける

①校内研修の中に，道徳や学級活動，専門教科の授業を全員で参観する授業研究を組み込む。

②教科部を中心とした授業研究と，専門教科の授業を全員で参観する授業研究のねらいを変える。

③授業研究を通して見いだした授業に関する知見は，各教科教育の中で生かし合う。

### 【提言の趣旨】

○設問７の「授業研究を取り入れた校内研修の是非についての考察」，設問８の「全員参加型の授業研究の是非についての考察」に対応した提言である。

○校内研修の中に，教科部を中心としたグループ単位による授業研究のほかに，専門教科の授業を全員で参観する授業研究を取り入れる。

○授業力は，「教材の解釈力」と「授業過程の組織力」と「授業のスキル力」の３要素から成り立っている。この授業力を身に付けるには，授業を構想し，展開し，評価していくリサーチワークとしての授業を通して鍛えていくことが大切である。

### 【留意点】

○「専門教科の授業を全員で参観する授業研究」の成果があがるようにするには，事前の授業研究にかかわる研修や授業研究の持ち方を工夫することが必要である。この努力をしないまま実施すると，成果があがらないばかりか，授業研究そのものへの不満が出るようになる。

○授業研究を契機にして，授業について自由に話し合う雰囲気が高まることが大切である。批判し合うだけの授業分析会にならないようにする。

※「専門教科の授業」を「全員で参観する」授業研究の進め方については，次節「授業研究について」の中で述べる。

## 2　授業研究について

### 提言６　指導案や授業分析の理解を深める基礎的研修を行う

①学習指導案の形式及び各項の趣旨について研修し，以後の授業研究に備える。

②授業研究の協議題及び分析・検討の仕方について研修し，以後の授業研究に備える。

**【提言の趣旨】**

○設問９の「授業研究の実施状況についての考察」，設問10の「授業研究の楽しさについての考察」，設問14の「授業研究の負担感についての考察」に対応した提言である。

○校内研修の一環として，学習指導案の形式及び内容について研修する機会はあまりない。たいていの場合，これらについて理解不十分のまま授業研究が行われている。成果の上がる授業研究を行うには，学習指導案について共通理解やレベルアップを図ることが大切である。

○教科部単位の授業研究は，教科教育の抱える課題に直結する協議題を設定する。専門教科の授業を全員で参観する授業研究の場合は，発問や指示，ワークシートの活用法等に関する各教科に共通な協議題を設定する。

**【留意点】**

○教科特性によって，学習指導案の形式が多少変わっても問題はない。大事なのは，個々の形式及び各項の趣旨について互いに了解し合った中で作成することである。

○学習指導案は，詳しく書くことに専念し過ぎると息切れしてしまう。授業参観をする際の情報として何が必要なのか十分に検討し，指導案の簡略化に努める。

○授業参観のマナーや授業分析会のマナー（全員発言を原則にすること等）について確認する。

## 提言７　教科横断的な協議題のもとに進める

①自校における教科横断的な課題を整理し，授業研究の中で計画的に協議題として取り上げる。

②ある教科で先導的な試みとして成果のあがっていることを協議題として取り上げ，各教科に広げていく。

③教科部による授業研究と全員が参加する授業研究の進め方を変える。

### 【提言の趣旨】

○設問11の「授業研究の有用性についての考察」，設問13の「授業研究の満足感についての考察」，設問14の「授業研究の負担感についての考察」に対応した提言である。

○道徳や学級活動の授業研究はもちろんのこと，専門教科の授業研究を校内研修の中に取り入れる。

○教科教育の課題についての実践的検討は，教科部の授業研究で行うようにし，全員が参加する専門教科による授業研究では，ワークシートの効果的な活用法，グループ学習のさせ方，指示の仕方等各教科に共通する事項について実践的検討を行う。

○協議の中に各人の日頃の取組を紹介し合う場を設け，授業を契機にして教科横断的な話し合いが深まるようにする。

### 【留意点】

○道徳や学級活動だけにとどまらず，互いの専門教科の授業を参観し，生徒理解を深めたり，自らの指導法を改善したりする契機とする。

○自分の専門教科でなくても，授業中の生徒の反応を基にして，教科教育の在り方について率直に，積極的に意見を述べるようにする。

## 提言８　授業の中で研究の成果を生かす

①一人一人が授業についての意見や感想を述べ，協議の中で確認したことはきちんと文章化する。

②授業研究を通して確認し合ったことを，日々の授業の中でどう反映し活用しているのか報告し合う機会をもつ。

③学校として共通の考え方のもとに同一歩調で取り組むことを明確にする。

### 【提言の趣旨】

○設問15の「授業研究の改善点についての考察」，設問16の「授業研究でいやだったことについての考察」，設問17の「授業研究でうれしかったことについての考察」に対応した提言である。

○日々の授業に役立つ新たな知見が見いだせない授業研究は，多忙感を抱かせるばかりで実施しても意味がない。授業研究の成果を日々活用することによって，授業研究の重要性が認識できる。

○授業研究は，個々人の授業力を向上させるだけではなく，その学校の教師集団の協同関係の向上や学校課題の組織的解決能力の向上を目指す営みである。したがって，個人としての授業力の向上だけでなく，教師集団としてのモラルや協力関係，学校の教育課題についての認識や解決に向けた取組が変わることも目指していく。

○必要に応じて外部講師を招聘し，多面的に考え，質の高い話し合いにしていく。

### 【留意点】

○指導案の作成段階から互いに声を掛け合うようにし，授業者だけが孤軍奮闘することのないようにする。

○外部講師を招聘した場合は，講師の考えを拝聴する受け身の聞き方ではなく，講師の話をもとに考えを見直したり深め合ったりする話し合いにする。また，教科横断的な協議題の場合の講師は，教科の専門家というよりはそれについて深い識見と実践をもつ方がふさわしい。

# V章　資　　料

◇全ての設問は，選択肢の中から１つを選択する単数回答方式である。

◇現勤務校の校内研修についての調査なので，設問によっては「この４月，転入したばかりで何ともいえない」の選択肢を用意した。

◇アンケート調査用紙及び回答用紙は，コピーして活用されてもかまわない。

# V章　資　　料

## 1　校内研修についてのアンケート調査用紙

**回答にあたってのお願い**

選択しにくい場合もあるかもしれませんが，各設問ともあなたの考えや気持ちに一番近いものを１つ選び，別紙の回答用紙の記号に○を付けてください。

なお，「その他」に○を付けた場合は，（　　）の中に選んだ理由を簡単に書いてください。

### O　あなたの「年代」と「性別」についてお聞きします。

①　あなたの年代は？　　ア　20代　　イ　30代　　ウ　40代　　エ　50代

②　あなたの性別は？　　ア　男性　　イ　女性

### I　校内研修全般についてお聞きします。

**校内研修とは**…校内の研修計画に基づいて実施される情報モラル研修や特別支援教育研修など，すべての研修のことです。但し，教科部等において，校内の研修計画にしばられることなく独自に，自発的に行われる研修は除きます。

1　あなたの学校の校内研修は，あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

ア　かなり役立っている

イ　少し役立っている

ウ　あまり役立っていない

エ　ほとんど役立っていない

オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

2　あなたは，あなたの学校の校内研修に積極的に参加していますか？

ア　かなり積極的に参加している

イ　少し積極的に参加している

ウ　あまり積極的に参加していない

エ　ほとんど積極的に参加していない

オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

3　あなたは，あなたの学校の校内研修について満足していますか？

ア　かなり満足している

イ　少し満足している

ウ　あまり満足していない

エ　ほとんど満足していない

オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

4　あなたの学校の校内研修の内容や進め方は，あなたにとって負担になっていますか？

ア　かなり負担になっている

イ　少し負担になっている

ウ　あまり負担になっていない

エ　ほとんど負担になっていない

オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

5　あなたの学校の校内研修の内容について，あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

ア　研修する内容が多すぎるので，もっと精選する

イ　研修する内容が限られているので，もっと広げる

ウ　日々の実践に役立つ内容をもっと取り上げる

エ　今日的な教育課題の解決に役立つ内容をもっと多くする

オ　実技研修をもっと多くする

カ　職員の意見や要望をもっと取り入れる

キ　改善すべきことはない

ク　この４月，転入したばかりで何ともいえない

ケ　その他（　　）

6　あなたの学校の校内研修の重点（研究テーマ）について，あなたは納得していますか？

ア　かなり納得している

イ　少し納得している

ウ　あまり納得していない

エ　ほとんど納得していない

オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

**授業研究とは**…よりよい授業の在り方を考えたり，授業力を身に付けたりするために行う実践的な研修のことです。実施にあたっては（指導案検討－授業参観－授業分析）のサイクルで進めますが，その一部を省略して実施している場合も含みます。

7　校内研修で取り上げる内容は多種多様です。あなたは，校内研修の一つとして授業研究を取り入れることについてどう思いますか？

ア　授業力を伸ばす上でかなり有益である

イ　授業力を伸ばす上で少し有益である

ウ　授業力を伸ばす上であまり有益ではない

エ　授業力を伸ばす上でほとんど有益ではない

8　中学校の校内研修について，「専門教科にとらわれることなく全員で授業を参観し，授業の在り方や指導法について話し合い，互いに授業力を伸ばし合うことが大切である」という意見があります。あなたは，この意見についてどう思いますか？

ア　専門教科にとらわれることなく，全員参加の授業研究を行うのがよい

イ　全員に共通する道徳の授業などに限定して，全員参加の授業研究を行うのがよい

ウ　専門教科以外の授業を参観しても有益な話し合いができないので，全員参加の授業研究はしない方がよい

エ　その他（　　）

## Ⅱ　授業研究についてお聞きします。

（あなたの学校で授業研究を実施していない場合は，回答の必要はありません。）

9　あなたの学校では，全員参加の授業研究をしていますか？

ア　授業者の専門教科の授業を全員で参観する授業研究を実施している
イ　全員に共通する道徳等の授業を全員で参観する授業研究を実施している
ウ　全員参加の授業研究は，実施していない
エ　その他（　　）

10　あなたの学校の授業研究は楽しいですか？

ア　かなり楽しい
イ　少し楽しい
ウ　あまり楽しくない
エ　ほとんど楽しくない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

11　あなたの学校の授業研究は，あなたの指導力を向上させる上で役立っていますか？

ア　かなり役立っている
イ　少し役立っている
ウ　あまり役立っていない
エ　ほとんど役立っていない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

12　あなたは，あなたの学校の授業研究に積極的に参加していますか？

ア　かなり積極的に参加している
イ　少し積極的に参加している
ウ　あまり積極的に参加していない
エ　ほとんど積極的に参加していない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

13　あなたは，あなたの学校の授業研究について満足していますか？

ア　かなり満足している
イ　少し満足している
ウ　あまり満足していない
エ　ほとんど満足していない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

14　あなたの学校の授業研究は，あなたにとって負担になっていますか？

ア　かなり負担になっている
イ　少し負担になっている
ウ　あまり負担になっていない
エ　ほとんど負担になっていない
オ　この４月，転入したばかりで何ともいえない

15　あなたの学校の授業研究について，あなたが改善すべきだと一番強く考えていることはどんなことですか？

ア　研究テーマにしばられず授業者の考えで自由に授業ができるようにする
イ　授業者の考えを尊重して指導案の検討をする
ウ　授業者任せにしないで全員で指導案づくりをする
エ　授業を批判し合うだけの授業分析会をなくす
オ　感想を述べ合うだけの授業分析会をなくす
カ　外部講師を招き授業について多面的に考え合う授業分析会にする
キ　全員が意見を述べ合う活発な授業分析会にする
ク　授業研究にもっと真剣に取り組むようにする
ケ　改善すべきことはない
コ　その他（　　）

16　あなたが研究授業をしたとき，一番いやだったことはどんなことですか？

ア　授業のよい所にはあまり触れず悪い所だけを厳しく指摘された
イ　指導案検討のときは何も言わないでいて授業分析会でいろいろ批判された
ウ　何回も指導案の書き直しをさせられた
エ　授業の問題点の指摘だけで改善策が示されなかった
オ　授業中のちょっとしたミスを仰々しく指摘された
カ　せっかく授業をしてもあまり意見が出なかった
キ　指導案づくり・教材準備などでとても忙しかった
ク　指導案がなかなか書けず困った
ケ　授業研究がマンネリ化していて，本気で取り組んでも得るものがない
コ　授業者のいい分を聞くことなく一方的に授業分析が進められた
サ　いやだったことはあまりない
シ　まだ研究授業をしたことがない
ス　その他（　　）

17　あなたが研究授業をしたとき，一番うれしかったことはどんなことですか？

ア　研究授業をするまでの努力や授業のよい所を認めてもらい励みになった
イ　指導案づくりで困っているとき，親身になって手伝いや助言をしてもらった
ウ　生徒が普段の授業以上によく動き，思い通りの授業ができた
エ　研究授業を通して自分の指導力を高めることができた
オ　研究授業をきっかけにして生徒が伸びた
カ　うれしかったことはあまりない
キ　まだ研究授業をしたことがない
ク　その他（　　）

## 2　回答用紙

### アンケート調査回答用紙

| 設問 | | 回答欄の記号（各設問とも○は１つだけ） |
|---|---|---|
| 0 | 1 | ア　イ　ウ　エ |
| | 2 | ア　イ |
| Ⅰ | 1 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 2 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 3 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 4 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 5 | ア　イ　ウ　エ　オ　カ　キ　ク<br>ケ（　　） |
| | 6 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 7 | ア　イ　ウ　エ |
| | 8 | ア　イ　ウ　エ（　　） |
| Ⅱ | 9 | ア　イ　ウ　エ（　　） |
| | 10 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 11 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 12 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 13 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 14 | ア　イ　ウ　エ　オ |
| | 15 | ア　イ　ウ　エ　オ　カ　キ　ク　ケ<br>コ（　　） |
| | 16 | ア　イ　ウ　エ　オ　カ　キ　ク　ケ　コ　サ<br>シ<br>ス（　　） |
| | 17 | ア　イ　ウ　エ　オ　カ　キ<br>ク（　　） |

ありがとうございました。

2010年２月17日　発行

発行者　　大　竹　　肇

発行所　　（財）新潟教育会　新潟教育研究所
〒951-8104
新潟県新潟市中央区西大畑町590−3　教育会館
ＴＥＬ　025−222−2971
ＵＲＬ　http://kyouikukai.jp
Ｅメール　kenkyujo@kyouikukai.jp